

# 伊勢市統計レポート



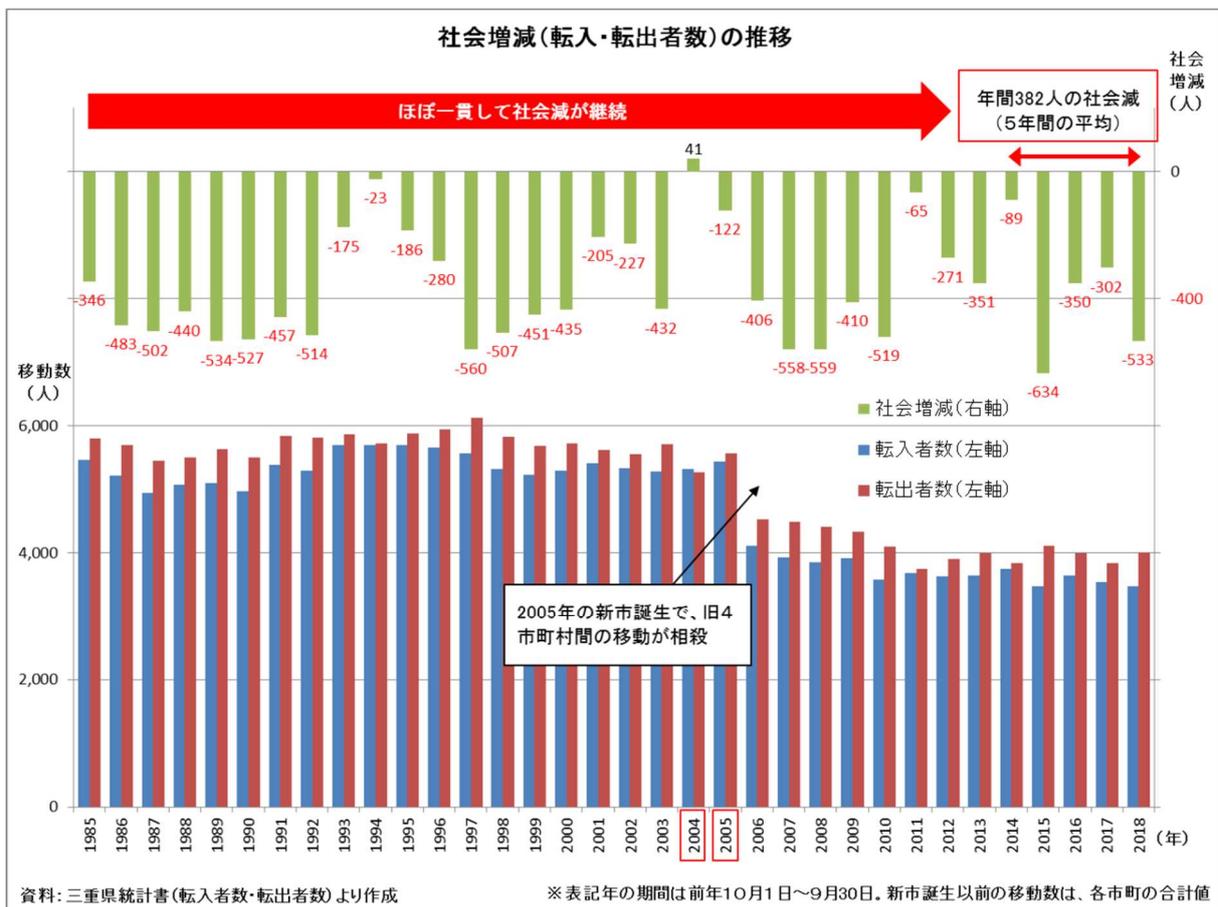
伊勢市人口ビジョン 令和2年3月版

【 社会増減の要因分析 】

「伊勢市人口ビジョン 令和2年3月版」で人口の現状を分析した結果、伊勢市の人口は減少局面にあり、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」、転出者数が転入者数を上回る「社会減」の両方の影響で、今後さらに人口減少が急激に進む懸念が明らかになっています。

今回のレポートでは、伊勢市の社会増減（転入者数－転出者数）の特徴をみていきます。

## ■ 社会増減の推移

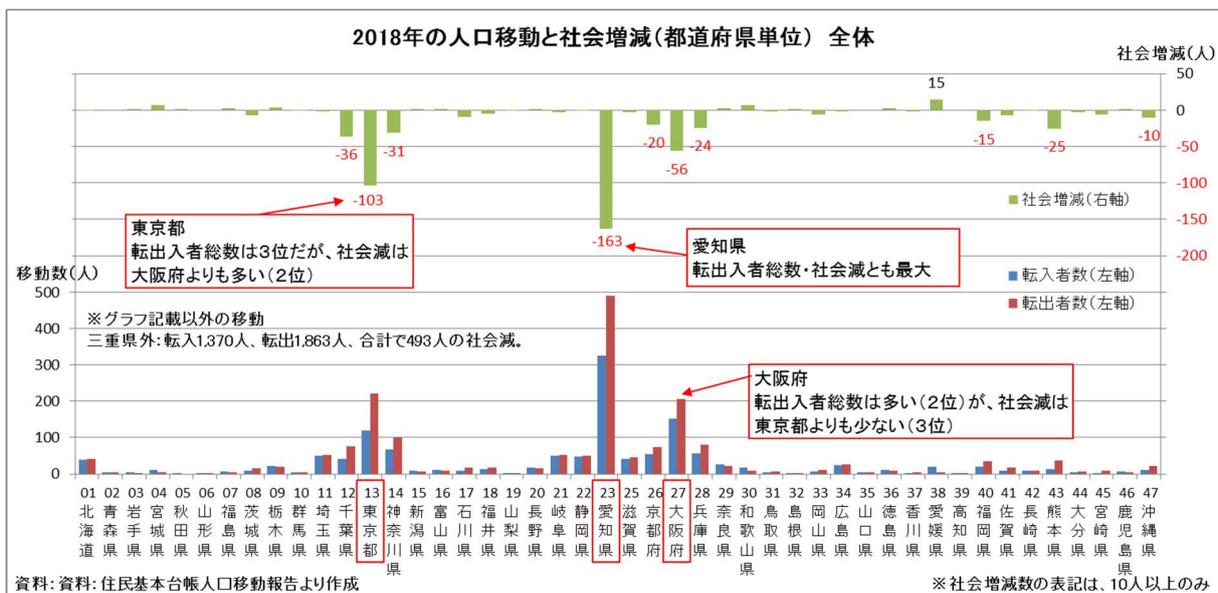


・社会増減は、2004年を除き全ての年で転出超過(社会減)となっている。

◆近年の転出超過(社会減)数は、年による変動は見られるものの、ほぼ一貫して転出超過の状態が続いていることから、人口流出(転出)に繋がる、あるいは人口流入(転入)を妨げる大きな要因が地域内にあるものと想定される。

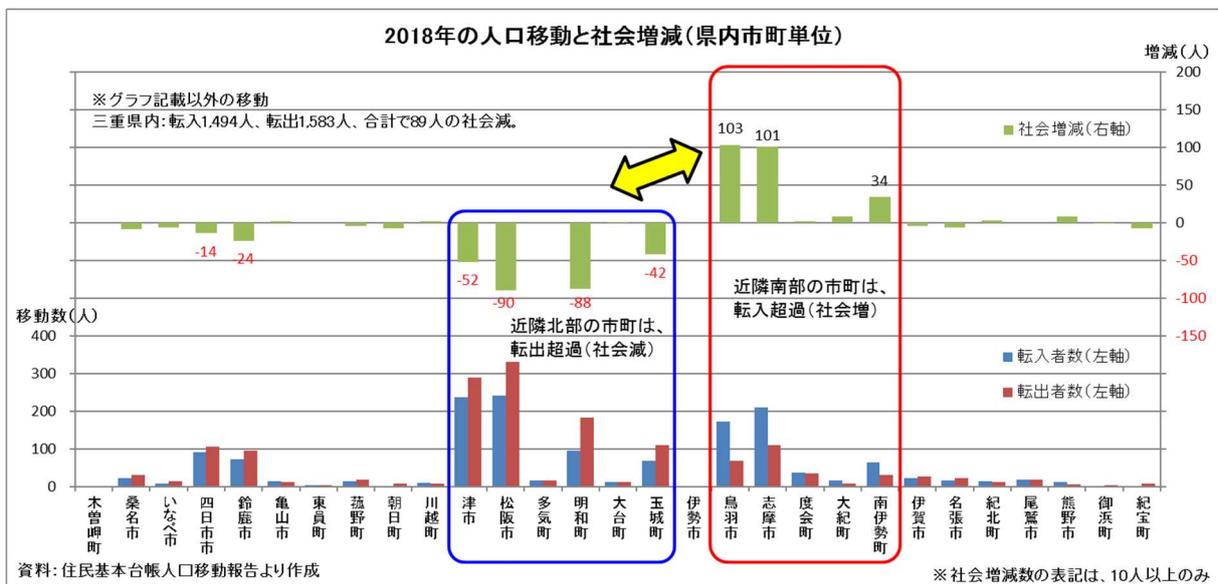
※本グラフの表記年の期間は、前年10月1日～9月30日となっています。一方、次ページ以降の社会増減のグラフは、1月～12月の期間における移動者数を表しています。そのため、同年の表記であっても期間が異なることから数値が一致していません。

■ 地域別（都道府県単位）の人口移動



◆人口の移動(転出)先の大半は3大都市圏で、中でも距離的に一番近い愛知県が最も多い。転入数も多いものの、年間 150 人以上の転出超過となっている。東京都や大阪府は、人口移動は愛知県の半分以下であるが、近隣府県も含め関東圏や関西圏への転出超過も比較的多い。

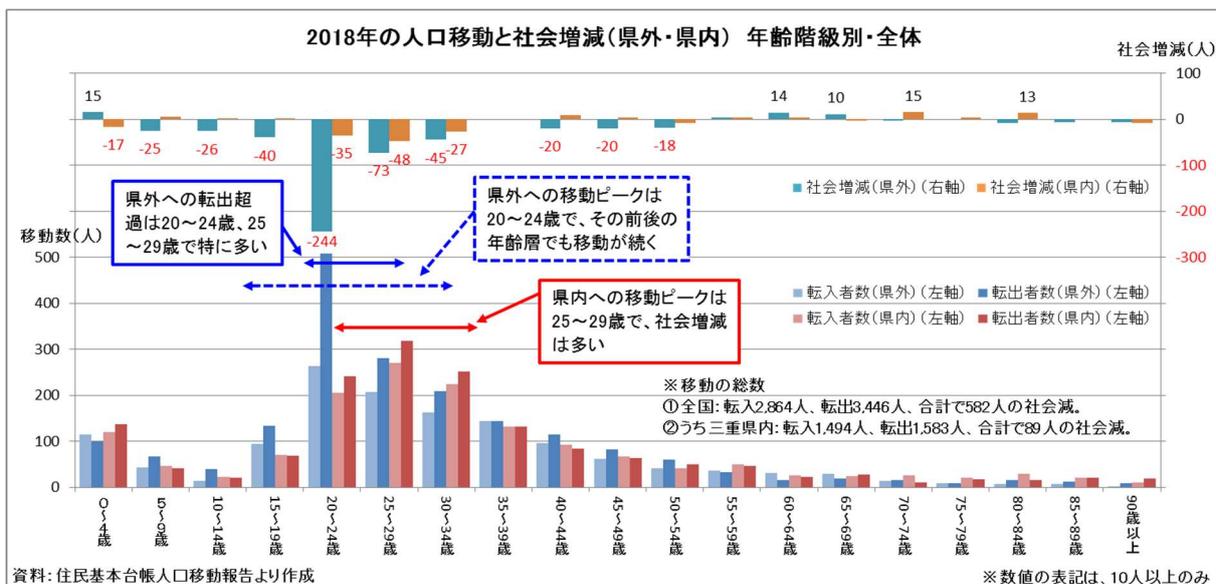
■ 地域別（県内市町単位）の人口移動



◆全体的な傾向としては、近隣及び南部に位置する市町からの人口流入がある一方で、北部に位置する松阪市や津市への人口流出が続いている。

◆現在転入超過の傾向が見られる伊勢市の南部に位置する市町では人口減少が進んでおり、将来的には転入者数が減少するとみられる。

## ■ 年齢階級別にみた県外・県内の人口移動



- ・20代を中心にその前後の年齢層に移動が集中している。
- ・県外への移動は、20～24歳の年齢層で特に多く、240人程度の転出超過(社会減)となっており、主に進学や就職等での移動と推測される。前後の年齢層でも移動が続いている。
- ・県内への移動は、25～29歳、30～34歳の層で特に多く、0～4歳の層の移動と合わせて考えると、結婚や出産に伴い新居を構える転居等と推測される。
- ◆県外への移動は、10代後半及び20代前半の転出超過が多く、大学等への進学やその後の就職等により、若者世代が流出していると思われる。
- ◆県内での移動は、社会増減がほぼ均衡しているものの、前述の市町別移動を加味すると、将来的には転入数が減少し、転出超過となることが懸念される。